

令和元年度第1回幕別町総合教育会議議事録

1 開催日時 令和元年7月22日（月）午後1時～午後3時30分

2 開催場所 幕別町教育委員会会議室
北海道幕別清陵高等学校（現地視察）

3 出席委員（6名）

幕別町長	飯田 晴義
幕別町教育委員会教育長	菅野 勇次
教育委員	小尾 一彦
教育委員	瀧本 洋次
教育委員	國安 環
教育委員	東 みどり

4 日程

(1) 開会挨拶

(2) 意見交換

① 小中一貫教育について

② アスリートと創るオリンピックの町創生事業について

5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山岸 伸雄
〃 政策推進課長	谷口 英将
〃 政策推進課副主幹	中田 周呼
幕別町教育委員会教育部長	山端 広和
〃 学校教育課長	宮田 哲
〃 生涯学習課長	石田 晋一
〃 学校給食センター所長	鯨岡 健
〃 図書館館長	武田 健吾
〃 学校教育課総務係長	山田 慎一
〃 学校教育課学校教育係長	塚本 真敏
〃 生涯学習課社会体育係長	甲谷 英司

6 傍聴者

1名

7 議事録

【開会挨拶】

(政策推進課長)

定刻となりましたのでただいまから令和元年度第1回幕別町総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして、飯田町長からご挨拶を申し上げます。

(町長)

皆さんこんにちは。今年度、そして、町長選後初めての幕別町総合教育会議となりますが、令和元年度においてはこの幕別町の教育にとってもコミュニティ・スクール、また、小中一貫教育の取り組みがスタートしたこと、さらには、北海道幕別清陵高校が開校したということで、節目の年になったわけであります。その中で今日は清陵高校の授業を見学し、校長先生と意見交換をさせていただく機会を得ましたので、どういうスタートを切っているのかということをしっかりお話を伺いたいと思っています。また、清陵高校では学校を開放して公開講座を行う予定とお聞きしています。清陵高校の存在をPRする取組だと思いますが、その辺りもお話を伺えればと考えております。

本日の議案は、小中一貫教育とアスリートと創るオリンピックのまち創生事業でございますが、しっかり皆さんと意見交換を行って参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(政策推進課長)

町長からもお話がありましたとおり、本日の会議は、始めに幕別清陵高校を見学いたします。その後、この会議室に戻りまして協議事項について説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【幕別清陵高校での意見交換】

(澤田校長)

まず私から4月からの取組状況をご説明させていただき、その後、皆さまから疑問に思うことや聞いてみたいことなどお答えしたいと思います。

皆さんご存知かと思いますが、4月に幕別高校、そして私立校である江陵高校が2年後の閉校を迎えるに当たって、本校が再編という形で令和元年度からスタートしたところです。私も寿都高校で2年間校長を務めていましたが、この話をいただいたのが本当にギリギリのところでした。3月31日に赴任しまして、4月1日着任してから教頭から色々話を伺って、早急に着手しなければならない問題や江陵高校との連携など様々な課題がありましたが、一つ一つ解決していこうと進めて参りました。

正直申し上げますと、色々懸念もございました。札内駅から学校までの道のりは坂道があります。また、帯広から通っている生徒もいますし、幕別町内から通っている生徒は全体の

3割を切っている状況です。もう少しで開校から4か月が経過しようとしていますが、基本的には先生、あるいは生徒同士、学校の環境体制など順調に進んでいると私なりには感じています。特に、4月に入学した本校の1年生102名と江陵高校生徒との関係性ですが、江陵高校の生徒が思っていたよりもしっかりしてしまして、礼儀や行事などの面でも本校の生徒をしっかりサポートいただいています。少しぐらいのトラブルはあると踏んでいましたが、今のところまったくそうした話は聞いていません。その辺りが私にとって良い意味での予想外のことと思っています。

実は入学した1年生の中には、中学時代、色々な問題を抱えている子供も多くいます。母子家庭は3分の1、父子家庭は7名いるなど様々な家庭事情を抱えている生徒の中で、中学時代に不登校傾向にあった生徒が多くいます。その中でも、10名は中学校50日以上欠席、中には300日欠席している生徒もいます。そういった中で、今一番に本校で手応えを感じていることはその子たち全員が学校が楽しいと言いながら学校に通ってくれていることです。これは、この度各中学校に訪問させていただいて、本校のPRや生徒の様子などを先生へお伝えしたところですが、その部分は本校で今一番力を入れているところです。今回の定期テストで1位取った生徒も中学校時代に不登校の子でしたが、非常に頑張っています。

そういった中で、本校開校に当たりどのような学校を目指していくのかということについて言いますと、しっかり先生方一人ひとりが生徒や保護者に寄りそうことが第一だと考えています。最近では家庭訪問をすることはないかと思いますが、生徒が学校に行きづらくなったりした場合には、保護者の方と連絡を取りながら担任を中心に家庭に赴くなどして、安心感をいただいているところです。そのおかげか、来たり来なかったりではありますが、とりあえず今学校に来るという状況でして、これは大事にしていきたいと思います。

正直言いまして、中学校ランクAという生徒はいません。BやCがいるかいないか、いわゆる学力の高い生徒は少ないです。そういった中で帯広市には8割位が国公立や私立の大学に進学する学校もありますが、そういった学校は目指してはいけないのかなと。また、私立ではスポーツに力を入れている学校もありますが、本校はようやくスタートして一部江陵高校と合同チームを組んで大会に出場していますが、まだまだ全道大会やインターハイを目指すような学校にはなり得ないと思います。

先程申し上げたとおり、まずは生徒のために先生方が生徒一人ひとりをしっかり見ながら進級させて、生徒の希望する進路を実現させることが私の一番の目標です。

本校は担任2人制で取り組んでいます。これは最近少しずつ導入されていますが、クラスに担任が2人いるということは、もちろん生徒との相性もありますが、相談する内容によって先生を選択することができます。担任の責任が軽くなったわけではありませんが、担任同士で連携しながら対応している様子を見ると、非常に有効だと感じています。

江陵高校と本校との先生同士の連携についてですが、当然様々な課題はありますが、月に1度総陵委員会という会議を開きまして、両校の状況や先生方が情報交換をしています。また、両校合同で行う行事もございますので、どのように進めたら良いかなど含めて意見交換

も行っています。

道内には約 230 校の道立高校があるわけですが、校長が 2 人いて校長の挨拶を 2 回聞く生徒というのは清陵高校だけです。まず、江陵高校の校長先生、次に私からお話をさせていただきます。これまで、学校行事や部活動の壮行会、合同での学校祭でも必ず順に挨拶いたしました。そう考えると、管理職自らが江陵高校としっかり手に手を取って子供たちに見せる姿勢が大事だと考えています。管理職が仲良くやっていることを見せることによって、先生方もそう感じ取って進めていかなければならないと感じますし、生徒もすごく敏感に感じると思います。正直言いまして、先生方同士考え方が合わないところもありますが、今のところ大きな問題になることはないですし、つい先日も学校祭の打ち上げを江陵高校の先生方が企画していただいて、非常に良い雰囲気で行っています。

そういった意味では、江陵高校の先生方には様々サポートいただいています。先生方にもよく話をしていますが、これが仮に新しい施設で本校の生徒しかいなかった中でスタートされたとしたら、生徒が好き勝手なことをやって、その分先生方が相当な指導をしていかなければならなかったかもしれません。違う学校ではありますが、同じ校舎内にいるということは、先生や生徒にとっても良かったと感じています。一から礼儀を教えることもしなくていいですし、部活動も 8 割、9 割が合同練習ですので、清陵の生徒は江陵の生徒を先輩と呼びますし、江陵の生徒も先輩としてしっかり面倒を見るという関係も築いています。

それは、コミュニティ・スクールの中でも委員の方からそういったお言葉をいただきましたし、中学校の保護者や先生方からも色々な心配はあったけど毎日が学校が楽しいと言っているよとお話をいただいていますので、私たちが思っていることは間違いはないと感じています。

これからどんなことがあるかはわかりません。ただ、今後も危機意識をしっかり持って教頭や先生方と協力しながら 1 日 1 日過ごして、また、来年は江陵高校と人数は逆転しますが、私としては今年度と同様、まずは江陵高校が先、次に清陵高校という形で進めていき、再来年、3 学年が完成した時にようやく幕別清陵高校としての真価が問われると思います。

今後ともご協力、ご支援いただければありがたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（國安委員）

担任 2 人制などの取組は校長先生が発案されたのでしょうか。

（澤田校長）

本来であれば、半年前から準備委員会というのが立ち上がって、校内規定など様々なルールを作るのですが、色々な事情がありまして、教頭先生をはじめ幕別高校の先生方が中心に幕別清陵高校をどのようにしていくかという話し合いの中で担任 2 人制の話が出ました。そのため、実際に私からこのようにしてくださいといった事はそんなに多くはないのです

が、担任 2 人制に関しては私が来る前から決まっていました。

（東委員）

先程、中学校の時に出席日数が少なかった生徒が高校では通学しているという話を聞いて少し安心と言いますか大変頼もしい気持ちになりました。例えば、不登校の経験のある生徒にとって学校側が通いやすい雰囲気づくりをして来たのか、生徒さんが自主的に通うような気持ちになったのか、その辺りをお聞かせいただきたいと思います。

（澤田校長）

しっかりした分析を行ってはいませんが、今のお話で言えば両方だと思います。実は明後日、全校集会を行う予定ですが、ようやく初めて私が 1 年生に対してこれからの学校の話をする機会をいただきました。その中で、今のお話もしようと思っています。今のうちの生徒の多くは、勉強やスポーツで一回どこかで挫折した経験があると思います。だからこそ、帯広市も含めた数ある高校の中から清陵高校を選んだと考えています。中学校の先生からもアドバイスもあったと思いますが、不安の方が大きかったと思います。幕別高校と江陵高校が一緒になった学校のイメージがどうしてもついて回ったと思いますが、ただ、新しい学校という意味では、何か新しいことが始まるという期待感はみんな持っていると思います。その中で、生徒たちが何かの折に自分を変えるきっかけをここで作って頑張ろうと私は感じています。

大体の不登校の子供は、私の経験から言いますと 3 日、4 日休むと段々来なくなります。その後、GW や夏休みをきっかけに全く来なくなるのですが、正直、GW 明けに何人かは厳しいだろうと思っていましたが、通学しています。ちょうど GW 前に宿泊研修を行いまして、そこで人間関係作りが非常に上手くいったことも大きいと思いますが、勉強やスポーツが飛び抜けてできる子供がいないという中で、この学校で何か自分が変わることができるタイミングが合ったと私は考えています。

（瀧本委員）

清陵高校が開校するに当たって、色々心配があったのですが、校長先生のお話をお聞きして、学校としてもすごく成長できるという安心感を得ることができました。その中で伺いたいのは、これから校長先生が考える目指す姿、あるべき姿というのをお聞きしたいと思います。

（澤田校長）

現状の 7 割、8 割は教頭先生を始めとする幕別高校を中心とした先生方で作られたものですので、これを全て変えることはできませんので徐々に私の考えを取り入れながら変え

ていきたいと思います。

先程申し上げたとおり、いわゆる、進学講習を朝から晩まで空き時間も含めて行うという体制は考えていません。それから、江陵高校が力をいれているスポーツ、福祉の分野については、来年度2つのコースがスタートします。ここで、どのように本校としての特色を示していくかというのがこれからの課題もあると思います。なかなか、新たなコースがスタートと言っても、人数は現在の希望を聞いても少ない状況ですので、これが本当に本校として10年、20年先を考えた時に必要なのかという検証をしながら考えていかなければならないと感じています。

その中でどういう学校にしていくかということを言いますと、まずは幕別町内に作られた新設高校と考えれば、今の生徒数のうち幕別町内からは3割も来ていませんので、これを来年には5割したいというのが私の目標です。5割程度は幕別町内の子供たちが安心してこの学校を選んでくれるような学校にしていきたいです。また、数年後には7割、8割の幕別の子供たちがここを選択してもらえようような学校にしていきたいと考えています。そのため、帯広市内から清陵高校に引っ張って来るようなことを中心には考えていません。とにかく、幕別町内の子供たちがしっかり清陵高校を選択肢の上位に入れてくれることを念頭に置いていることが一つ。

もう一つは、教頭、先生方と色々話しているところでありますが、道立高校の中でも総合学科というのが割と多く取り入れています、恐らくこれは数十年後には立ち行かなくなるだろうと私は考えています。生徒数が少なくなる分、先生方の専門科目も確保できないという時代が来ると、総合学科で生徒の選択制を担っていくというのは相当厳しいと考えています。これは高校側が例えば、進学、就職、専門学校といったコース、あるいは清陵高校のように体育、福祉といったコースを教育課程として定めて、生徒に選択させるという時代はもう私の中では終わっています。極端な話ですが、大体の学校ではコースが定められて、1年生の中盤には夏休みが明ける頃にはどのコースに入るか決められてはめていかれます。その中で実は工業系は希望していなかったにも関わらず、数学や理科が得意だったため、なぜか工業系のコースにはめられて、高校を出るときには道内国公立の工業大学を受けさせられるという学校は多いです。今後はICTを活用して、自分たちが自分たちのコースを学習するという時代が来ていると私は考えています。そういった環境をしっかりと整えてあげて、先生がしっかりアドバイスをする体制を数年に整えなければならないと思います。

私たちの時代もそうでしたが、朝講習、昼講習、放課後講習のようにありとあらゆる隙間の時間を講習で補っていく時代はもう終わったと思いますので、いかに1年生の早くから進路指導を見定めて、自分の行きたいコースを見つけさせて、それを自分たちで学習するような仕組みを作っていく。先生方はあくまでも裏でコーチングするだけ。そのためには、生徒一人ひとりがマネジメント力を身に付けなければならないと思います。もちろん、先生方にもマネジメント力が必要となりますが、生徒も自分のスケジュール管理をしっかりとマネジメントする、3年と言いつつも実際には準備期間は2年間しかありませんので、どうマ

ネジメントするかというのが非常に大事な事で、そういったところに数年かけてシフトしていきたいと思っています。

十勝管内でもそうですけども、市町村では高校の支援合戦となっています。地元の高校を無くさないためにどれだけ支援していくかというのが、どこの自治体でも行われていますが、そうではなくて、どういう学校にしていくのかというのをしっかり理解してもらうことに結び付けていけば、自然と親も子供たちも選んでくれる、それが魅力ある学校づくりだと思います。多少お金が高くてどんな場所にあっても、質やレベルを親と子供が考えて選んでくれると思いますので、そこを突き進むだけだと考えています。

(小尾委員)

校長先生のお話を伺いまして、先生の考える学校づくりや先生と生徒の絆が感じられましたので本当に安心したところです。1点お聞きしたいのは、始業式が16日からとなるとほぼお盆の時期に家族や親族らと顔を合わせることが難しいと思いますが、時代的に授業時間数を確保したりするためには、他の学校でも8月16日位から授業が始まるのでしょうか。

(澤田校長)

16日からでも遅いくらいです。正直言いますと、学校業界はお盆や墓参りというのは想定して計画を立てていません。毎年8月14日、15日は国体の全道大会がありまして、部活のことも考えますと、遅く始まると様々な問題を抱えることになります。そんな中で、学校としても3日間学校閉庁日を設けて、ようやく働き方改革が動き出したところではありますが、16日でもまだ良い方だと思います。

話が逸れるかもしれませんが、縦軸が親、横軸が学校の先生だとすると子供たちが大人と接する場面は、今は縦と横しかありません。お話のあったとおり、親戚の叔父さん叔母さんと会う機会や近所の方と交流する機会というのはなかなかないので、私は生徒にアルバイトをやらせようと言っています。アルバイトを通して一般の方と接することが絶対に今の高校生に必要なだと思っています。

これから、町内の高校生に参加してほしい事業をご紹介いただいて、どんどん町内に入っていく。できればその日だけ活動するのではなく、その事業の目的や手段などを考える企画にも、もしうちの高校生が協力できるのであれば、事業に参加させていただいてそういった機会を増やしていくことが私は大事だと考えています。

【総合教育会議意見交換】

(政策推進課長)

それでは、ここから協議事項に移りたいと思います。

進行につきまして町長をお願いいたします。

(町長)

それでは議案に入り意見交換をさせていただきたいと思います。

まず、小中一貫教育について説明をお願いします。

(学校教育課長)

それでは、私から小中一貫教育について、ご説明いたします。

幕別町の小中一貫教育につきましては、平成 28 年度から調査、研究を行い、平成 30 年度は、小中一貫教育モデル校の実践及びエリア校の実践、令和元年度から令和 4 年度は、小中エリア学園一貫教育本格実施、令和 5 年度から令和 6 年度の幼小中高校一貫教育の実践を目指すものであります。

本年度につきましては、小中エリア学園一貫教育本格実施と位置づけ、小中一貫教育が本格的に実施したところであります。

資料 1 の表は、幕別町の小中一貫教育の取り組み状況等を記載した表となっております。

まず、小中一貫教育の元となる 5 学園についてですが、中学校区を基本に学園を構成しております。「まくべつ学園」ですが、幕別小学校と幕別中学校で構成された児童生徒数 250 人の学園であります。「糠内学園」は糠内小学校と糠内中学校で構成された児童生徒数 43 人の学園です。「さつない学園」は古舞小学校と途別小学校、札内南小学校、札内中学校で構成され、児童生徒数 1000 人と町内では一番大きな学園となっております。「札内東学園」は白人小学校と札内北小学校、札内東中学校で構成された児童生徒数 706 人の学園です。最後に「ちゅうるい学園」は忠類小学校と忠類中学校で構成された児童生徒数 124 人の学園です。この 5 学園で小中一貫教育を行ってまいり、昨年度までは、「まくべつ学園」と「札内東学園」をモデル校として小中一貫を実践してきました。

表の「目指す姿」である「ふるさとに誇りをもつ子どもを育む幕別の小中一貫教育」は幕別町が掲げるものでございます。

それでは、各学園における取組内容につきまして、現在検討を行っているものも含めてご説明いたします。

はじめに、「まくべつ学園」についてですが、目指す子ども像としては、「自ら進んで学ぶ子ども、思いやりのあるやさしい子ども、心身ともに健康でたくましい子ども」であります。昨年度までモデル校として実践した成果としては、児童会、生徒会の合同あいさつ運動や交流をきっかけに小中の隔てなく、子どもも教職員も距離が縮まったこと、また、まくべつ学園が示す「目指す子ども像」を中 3 が模範となり小学生に様々な機会を示すことで、共通意識を持てるようになってきたことが挙げられています。小中一貫教育における取組内容としましては、昨年度、乗り入れ授業として外国語、体育、算数の教科で実施しましたが、今年度から音楽につきましても、乗り入れ授業を行うものであります。また、9 年間を見通した教育課程の編成、総合的な学習の時間の指導計画作成、部活動体験、中学校一日体験授業、

合同あいさつ運動、合同クリーン作戦、家庭や地域住民への情報発信などを行っています。

次に「糠内学園」についてですが、目指す子ども像としては、「郷土を愛し、理想の実現に向けて、努力し続ける南幕の児童・生徒」であります。昨年度までエリア校として実践した成果としては、小中一貫に向けたより具体的な構想を立て、計画に位置付けることができたこと、また、学園の経営計画が示されたことにより、学園を一体に捉えた教育活動が展開できるようになったことが挙げられています。小中一貫教育における取組内容としましては、乗り入れ授業について、理科、音楽、外国語を実施するものであります。また、9年間を見通した教育課程の編成、中学校登校、運動会・学習発表会等の交流行事、一貫便りの発行などを行うものであります。

次に、「さつない学園」についてですが、目指す子ども像としては、「ふるさとを愛したくましさを身に付けた子ども～3つの力を磨く義務教育9年間～自ら表現していく力、自ら学ぼうとする力、他とかかわり合う力」であります。昨年度までエリア校として実践した成果としては、出前講座を実施した教諭が中学校にいて、入学当初の不安が軽減されたこと、また、合同挨拶運動の実施により、児童会、生徒会の交流や中学生の挨拶の良さを知ることができたことが挙げられています。小中一貫教育における取組内容としましては、音楽を中心とした取り組み、また、乗り入れ授業については、これまで国語、体育、外国語の教科で実施していましたが、今年度から理科につきましても、乗り入れ授業を行うものであります。また、9年間を見通した教育課程の編成、学習会におけるサポート、中学校一日体験授業、合唱交流、児童会生徒会合同あいさつ運動などを行うものであります。

次に、「札内東学園」についてですが、目指す子ども像としては、「ふるさとを愛し、夢や希望の実現に向けて、仲間と共に高め合う子ども」であります。昨年度までモデル校として実践した成果としては、様々な取り組みにおいて、小学生が中学校生活をイメージできるようになり不安の解消につながっていること、また、中学校教諭による小学校での授業により、教員同士の指導方法の連携を図られるようになったことが挙げられています。小中一貫教育における取組内容としましては、乗り入れ授業について、理科、体育、外国語の教科で行うものであります。なお、外国語は町内唯一の教科担任制となっています。また、9年間を見通した教育課程の編成、児童会生徒会交流、部活動少年団活動交流、合同クリーン作戦の他、現在検討中ではありますが、合同パークゴルフ授業、合同学習発表会、合同運動会などを行うものであります。

最後に、「ちゅうるい学園」についてですが、目指す子ども像としては、「人を思いやり チャレンジ精神に満ち 自ら学んでいく ふるさと忠類を愛する子ども」であります。昨年度までエリア校として実践した成果としては、各担当が主体性を発揮して事業を円滑に推進することができたこと、児童生徒のアンケート結果により中学校入学前の不安感が解消されていることが挙げられています。小中一貫教育における取組内容としましては、乗り入れ授業について、体育、外国語の授業を行うものであります。また、9年間を見通した教育課程の編成、年間カリキュラムの作成、相互の授業参観、町内清掃活動、一貫たより発行、一

貫揭示板の設置などを行うものであります。

このように、5学園の取り組みについて説明いたしました。乗入れ授業については、教科の違いはありますが、どの学園も「外国語」の授業を行っているものであり、来年度から小学校で外国語が教科化されることもあり、「外国語」の乗入れが行われているものであります。また、今年度から9年間を見通した教育課程の作成が本格化するものであり、どの学園も教育課程の編成に取り組むものであります。また、小学校児童の中学校への体験授業等もどの学園を実施しておりますが、そのことが、中1ギャップの緩和につながっているものと考えております。また、一貫便りの発行や一貫揭示板の設置につきましては、どの学園も行っており、一貫便りを発行し、公区内の回覧を行うなどの情報発信をし、各学校内に一貫揭示板を設置し、各学園の他の学校の学校だより等掲示することにより、他の学校の情報が得られるものとなっております。

小中一貫教育は本年度から本格実施したばかりではありますが、今後に向けて、目指す子ども像や教育課程の系統性等、一貫性のある学習指導や組織的な指導を推進し、「ふるさとに誇りをもつ子どもを育む幕別の小中一貫教育」を進めていきたと考えているところであります。

参考までに、次ページ以降には、各学園の経営構造図等を添付しておりますので、後程ご覧いただきたいと思っております。

次に、資料はありませんが、コミュニティ・スクールについて、若干説明をさせていただきます。

コミュニティ・スクールにつきましては、本年度から導入したものでありますが、合わせて、各学校の運営協議会間の情報共有や取組格差を少なくすることを目的とした、幕別町小中一貫・コミュニティ・スクール推進連絡会議を設置いたしました。この会議は、各学園の学園長や学校運営協議会の会長、小中一貫コーディネーター、幕別町PTA連合会代表者等全29名からなる会議です。6月11日に第1回の会議を行い、幕別町の小中一貫教育及びコミュニティ・スクール事業の経緯や各学園の事業計画が発表されたのち、「小中一貫教育の推進との関わり」と題して、学園から地域に還元できるもの、地域の資源で学園に生かせるものなど、各学園で熟議を行ったものであり、様々な意見が出され、これらを各学園の共有情報として活用し、今後のコミュニティ・スクール活動に生かしていくものであります。

本年度はあと1回連絡協議会を開催し、熟議を重ね情報共有に努め、令和3年度からのコミュニティ・スクールの事業実践に向け取り組んでいくものであります。

最後になりますが、先日の7月12日には町職員を対象として、小中一貫教育及びコミュニティ・スクールについてと題し職員研修を実施いたしました。約50人の職員が参加し、小中一貫教育、コミュニティ・スクールや幕別町の小中一貫教育とコミュニティ・スクールの取組について講義を行い、その後は、職員として学園とどのような関わりや協力ができるかという題材で熟議を行ったものであります。

以上で、幕別町の小中一貫教育についての説明を終了します。

(町長)

ただ今の説明の冒頭で、令和元年から5年までの第1期として、まずは小中一貫について進めていく、その後は幼稚園や高校も含めた一貫教育を進めていくという考えでございました。小中一貫教育と言いますと非常に大きな概念でありまして様々な形態があります。例えば、離れた場所にある小学校及び中学校で、教育課程および教育目標に一貫性をもたせる施設分離型、また、同一の校舎内で組織・運営ともに一体的に小中一貫教育を行う施設一体型、さらには初等教育6年と中等教育3年の計9年間の課程を一体化させた義務教育学校、あるいは、隣接する小学校及び中学校で、教育課程および教育目標に一貫性をもたせる施設隣接型という形態もあります。

その辺りの次に向けた検証をどこで行うのでしょうか。

(教育長)

この5年というスケジュールというのは、令和4年度までに利用実践をし、令和5年度以降の幼小中校高一貫に向けて検討していきたいということです。

(町長)

子供の数は少なくなっていくしますので、できれば一つの校舎で取り組むことがより一貫性を保てるのではないかと思います。やることは9年間見通した一貫教育や総合教育課程を作成することと思いますが、校舎が一つなのか複数なのかによって効果が違ってきます。今日の清陵高校のように、清陵高校の1年生が入学してきたことによって、江陵高校の生徒の間に軋轢が生じたよりも、しっかりと面倒を見るようになったということもあります。今の時点でいつ頃何を行うのかという具体的なことは見えませんが、次のステップに向けた検証をしっかりとしながら考えていかなければならないと思います。

小中一貫教育の効果として注目すべき取り組みなどありましたら、説明願います。

(学校教育課長)

札内東学園では、外国語の授業で教科担任制を取っております。今後外国語につきましては、全ての授業で中学校の先生が行っていく予定です。また、さつない学園では、音楽で合唱を取り入れた授業が盛んに行われております。

(町長)

今説明のありました取組が、他の学園でも対応できるのか、また、地域特有のものというのは先生にもよるところもありますので難しいとは思いますが、取組自体は素晴らしいものだと思います。

（教育長）

さつない学園は、昨年十勝こども大会の際に合唱の発表を聴かせていただきましたが、とても素晴らしかったです。その流れを他の学園にも広げていこうというものでございます。また、札内東学園はパークゴルフをコミュニティスポーツとして取り入れられないかということで、ふるさと学習も含めて新たな取組として進めているところです。

（瀧本委員）

小中一貫教育は、コミュニティ・スクールも含めて地域の協力がなくてはできない取組だと考えています。先ほど令和5年を目途に幼小中高一貫のお話がありましたが、立地条件といった環境の問題なども踏まえて、可能であれば、早い段階で一緒に授業や子供たちの交流ができるような仕組みができればいいのではと思います。

（町長）

現在5つの学園がありますが、全てできるかということと地域の特色があるのでなかなか難しいところもあるかと思います。まくべつ学園やちゅうるい学園は比較的すぐできると思いますが、町内4校のへき地校のうち糠内小学校、明倫小学校を抱える糠内学園、古舞小学校、途別小学校を抱えるさつない学園はなかなか難しいと思います。一方、へき地校においては、既に小学校単位でコミュニティ・スクールが出来ています。PTAや地域からの支援が本当に手厚い地域ですので、従来どおり進めていただきたいという思いもあります。

（小尾委員）

小中一貫教育の基となるのは中一ギャップがあるわけで、私も経験からしか言えないが、昔は中学校の先生とは休み時間も含めて日常から顔を合わせていましたので、それだけで緊張がほぐれていたところがありました。授業と普段の時の顔が両方見えていると、先生の人となりわかります。今の時代に置き換えてみると、先程の英語の先生が授業の際に小学校を訪問した際に、できれば半日でも学校にいれる形を取って、休み時間でも先生と関わりを持ちながらお互いに意思の疎通ができれば、その回数が増えることによってギャップが解消できると考えています。

（町長）

先生が好きだからこの教科が好きになったというのもありますよね。まずは先生を好きになってもらうということも大事だと思います。

（学校教育課長）

先日、札内中学校の先生が理科の授業で古舞小学校へ行きましたが、その時には、5時間目の授業ではあったのですが、実際には4時間目から学校へ行って準備をしました。子供た

ちとも準備の段階から触れ合うような環境になっていると思います。

（教育長）

途別と古舞の小学生が札内南小学校へ行って、そこに札内中学校の先生が訪問して一緒に授業を受けたということもありました。逆に中学校に小学生に集まる事例もありました。ただ、丸一日となると厳しいので、せめて1コマか2コマになるかと思います。

（小尾委員）

それも高学年だけではなく、理想は1年生のうちからできれば理想ですね。

（教育長）

生徒数が少ない古舞小学校の子供たちが大規模学校に慣れるために札内南小学校に行つて交流をする小々連携のようなことも行っています。

（小尾委員）

私もそうでしたが30～40人の小学校から400人以上いる中学校に進学すると、入学式の段階で人に酔ってしまいます。それはまだいいのですが、へき地の中学校から高校に進学した場合、もっと人が多いので馴染むには相当時間がかかります。私もそうでしたが、できるだけ早いうちから大人数に慣れること、特に少人数の子供たちには大人数で慣れさせる環境づくりが必要だと思います。

（教育長）

先日伺ったお話の中で、農村部の学校はどうしても5～6年生になったら少ない生徒数の中で必ずリーダーにならざるを得ないので、中学校に進学するとリーダーを担う子供が多いとのことでした。逆にずっと大規模学校で過ごしている子供たちというのは、ほとんどの子供がリーダーにならなくて済むので、小規模学校で育った子供の方がリーダーを務めるということでした。

（瀧本委員）

先日、幕別小学校5年生の英語の授業で幕別中学校の先生が指導をしている様子を見学させていただきました。その際に感じたこととして、子供たちがとても楽しく授業を受けていたのが印象的でした。小学校、中学校の校舎は違いますが、乗り入れの効果は大きいと感じています。

（町長）

英語の授業では担任の先生と中学校の先生はどういう役割で授業を進めているのですか。

(教育長)

TT (チーム・ティーチング。複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導する方式) です。主に小学校の担任の先生が T1 (授業進行)、中学校の先生が T2 (机間指導) の関わり方をしています。授業を見ますと子供たちは本当に楽しそうに勉強していました。やはり中学校の先生は教え方が専門的ですので、惹きつけるものがあるのではないかと感じています。

(小尾委員)

幼児教育からそのような教育ができるとより効果が出てくると思います。

(教育部長)

年に数回程度になりますが、幼稚園、幕別中央保育所と幕別小学校が相互に往来する形で入学を体験できる取組を実施しています。また、先生方の交流として小学校の先生が幼稚園に伺ってどんなお子さんがいるのか事前に把握する場を設けるなど、幼稚園と小学校を繋げるための取組を行っています。

(教育長)

小学校から中学校に進学する際に問題となるのは「中1ギャップ」、一方、幼稚園や保育所から小学校に進学する際に学校生活に馴染めない状態が続くことを「小1プロブレム」と呼ばれています。小学校に進学する際にも就学指導の範疇の中でも連携を図っているところ です。

(町長)

それでは、議案1につきましては、この辺りで終了とさせていただきます。

続きまして、議案2「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」について説明をお願いします。

(生涯学習課長)

アスリートと創るオリンピックの町創生事業について説明させていただきます。

資料2をご覧ください。

今年度、生涯学習課で担当する事業及び事業費をまとめたものでございます。

事業を大きく5つに分けて実施しているところです。次のページにスケジュールを含め内容の詳細を記載していますので、そちらをご覧ください。

1の「スポーツ合宿・大会誘致の一元的な基盤づくり及び情報発信」についてですが、こちらは昨年度に引き続き、慶應義塾体育会野球部の合宿を予定しています。期間は8月2日から8日までの6泊7日、練習会場は幕別運動公園野球場となっています。受入人数は約45

名となっていますが、先日、大学側から連絡がありまして、選手が31名、学生スタッフが8名、マネージャーが3名、監督、助監督、トレーナー含め合計45名が幕別町に来ることとなりました。主な内容としましては、練習会場の一般見学の開放、また、交流事業としまして、8月4日開催するパークゴルフ家族大会に選手への参加を呼び掛けています。また、5日には、町内小中学生を対象とした野球教室を開催します。昨年度同様に小学校と中学校に分けてそれぞれ学生から指導を受けるものであります。6日には、監督・選手を講師に招いて札内コミュニティプラザにおいて講演会を開催します。なお、7日と8日には練習試合を予定しており、実行委員会に参画している観光物産協会が物産ブースを出店することです。

続いて、車いすラグビー日本選手権大会予選リーグの開催についてですが、7月27日、28日の2日間、札内スポーツセンターで開催されます。こちらは、3チームでリーグ戦を行います。その試合の合間にパラリンピックの競技種目であります車いすラグビーの体験会やパラリンピアンとのふれあい事業を予定しています。

2の「スポーツを支える人材育成」であります。日本体育大学との連携事業として、指導者を対象とした研修会を開催します。日程は11月12日に札内地区での開催で調整しているところです。

3の「農産物と運動と健康に関する調査研究」についてですが、来年度、本格実施に向けて、今年度は日本体育大学に事前調査を行っていただく予定でございます。

4の「スポーツを核としたまちづくり検討会の開催」についてですが、昨年度に引き続き、「オリンピックのまちワークショップ」を今年度既に2回開催しています。通算して4回目を4月23日、5回目を6月29日に札内コミュニティプラザで開催しました。この中で出された5つの提案について議論を重ねてきましたが、その検討結果を秋に報告会として開催する予定です。その報告を受けまして、町としましては既決の事業で対応可能できるものや新年度以降、新たに予算化が必要な事業などを精査し、提案に基づいた対応を考えていくものとしています。

5の「町出身のアスリートや人材を活用した健康プログラムの展開」についてですが、オリンピックレガシーの展示として、冬季オリンピック出場者5名と夏季オリンピック出場者3名の合計8名の紹介や実際に使用した器具などを展示するブースを設置します。イメージとしましては、帯広市の明治オーバルのようにパネルと選手が使用したウェアなどを展示するスペースと分けて広く周知して参ります。また、オリンピックの選手指導は、高木姉妹によるスケート教室を予定してまいりまして、9月14日か15日で調整しているところでございます。続いて、オリンピックとのふれあいイベントですが、当初、10月下旬の開催を予定していましたが、この時期がスケートの本格的なシーズンを迎えることもあり、高木姉妹の日程が確保できない状況でございます。一方、9月で開催するとなると、夏季のスポーツ選手がまだ大会開催中ということもあり、夏、冬分けての開催を見込んでいます。なお、バルシューレ教室は既に4月6日に開催し、32名の参加をいただきました。

説明は以上でございます。

(町長)

ただ今の説明に関しまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(國安委員)

オリンピックのまちとしての素晴らしい取組だと思いますが、例えば、高木姉妹のスケート教室への参加者の募集というのは、町民限定とするのでしょうか。

(生涯学習課長)

町民限定とする予定です。

(國安委員)

私としましては、定員がある場合は町民限定としても問題ないと思いますが、もっと広い気持ちで近隣市町村にも選手と触れ合いたいというお子さんはたくさんいると思いますので、講演会などでも定員の枠に余裕があれば、ぜひ、幕別町が先導して十勝全体をスポーツで盛り上げるというスタンスだと嬉しいです。

(生涯学習課長)

スポーツ教室など内容が細かい事業については町民を対象として実施したいと考えています。一方、選手と触れ合うようなイベントなどについては、多くの皆さんに集まっていた方が選手にとっても良い効果もあると思いますので、内容や施設に応じて考えていきたいと思っています。

(東委員)

オリンピックレガシーの事業については、以前この会議においてもお話を伺っていましたが、札内スポーツセンターと農業者トレーニングセンターの2カ所で展示するに当たり、どのくらいの期間展示する予定でしょうか。

(生涯学習課長)

この2カ所については、常設展示とする予定です。また、展示物は季節に応じて変更する可能性はあります。なお、以前、高木姉妹のスケートなどを展示した催しを忠類コミュニティセンターで行ったこともあります。向こうの施設には展示用のショーケースもございますので、選手からお預かりした用具等も余裕があれば、期間限定になるかと思いますが、忠類地域でも積極的に展示したいと考えています。

(東委員)

今年度、選手と直接ふれあうことができる事業も予定されていますが、残念ながらこうしたイベントに参加できない方々からすると、こうした展示というのは多少なりとも刺激を受けること、また、リピーターも増えると思いますので、ぜひ、工夫しながらより良い展示となるよう期待しています。

(町長)

いつ頃展示物を見ることができる予定でしょうか。

(生涯学習課長)

現在、オリンピックの皆さまに展示いただける道具等を確認いただいています、今月中には調整する予定です。その道具等を踏まえまして、展示方法や設置工事方法などを含めたプロポーザルを行います。当課としては、先程説明したオリンピックとのふれあいイベントに合わせてお披露目したいと考えています。

(町長)

工事の都合もあるかと思いますが、できるだけ早く町民の皆さんにお披露目できるよう対応をお願いしたいと思います。

(小尾委員)

「オリンピックのまちワークショップ」の中でも、送迎や金銭面などでの保護者のサポートを中心として子供たちのスポーツを支えようという意見が出されていました。地区予選から勝ち上がって行く度に、保護者や後援会が交通費などを負担しており、それが結構大変だという相談をよくされます。町としても良い成績を出した選手に対しては表彰をしていますが、中学生以上になると一定程度、遠征に要する費用などは工面いただいています、小学生以下に関しては少年団活動の中で面倒を見ていると認識しています。その辺りでの保護者の負担をできるだけ軽くすることが町としても必要ではないかと考えています。

(生涯学習課長)

全道大会以上に参加する際の交通費などを助成しています。具体的には、少年団での大会参加の交通費は経費の半分、宿泊費は1泊8,000円を基準としまして、その基準を超えた場合は保護者負担となりますが、4,000円は町が負担する形としています。なお、十勝管内での移動につきましては、中学校の部活動に限り、スクールバスも提供していますが、少年団の活動では提供していません。これは、文化分野においても同様の基準でとなっています。

(國安委員)

スケートの場合、強い選手はオーバルに通っていると思いますが、利用する度に料金がかかると思いますので、町から市に掛け合って少し料金を下げてもらえるなど対応いただけるとありがたいと思います。

(町長)

十勝全体での問題になりますので、幕別町だけ料金を下げるということはできないと思いますが、減免規定などあるかもしれませんので、どのくらい負担となっているのか実態を調べたいと思います。

その他、皆さんからご意見等ございますでしょうか。

事務局から連絡事項などありましたらお願いします。

(政策推進課長)

次回の会議は1月頃を予定しています。詳細が決まりましたら、別途ご連絡いたします。

(町長)

それでは、以上で令和元年度第1回幕別町総合教育会議を終了します。

本日はどうもありがとうございました。